

インターネットメディアデザイン

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：集合知やキュレーションといったインターネットの基本的特徴について、実際に社会で機能しているソーシャルメディア／ウェブサービスを利用した実践演習を通じて理解する。インターネットのアーキテクチャを理解し、その可能性と限界を知ることにより、自身が生きていくためのメディアとして主体的にインターネットを活用する姿勢を学ぶ。個人のブログからソーシャルメディア、多様な社会参加を促す実験的メディアに至るまで、インターネット活用の様々な側面を概観し、メディアの特徴と可能性を理解する。ファンダムを想定したオンラインメディアの企画・制作演習を通じて、インターネットメディアデザインの基本的手法を理解する。

■**到達目標**：①インターネットの思想・特徴を理解し、それらの特徴を活かしたインターネットの主体的利用ができる。インターネットのアーキテクチャや、メディアを支える基本的仕組みを理解する。
②創出価値の明確なビジョン、コンテンツの編集手法、UIデザインの提案とともに、インターネットを活用したメディアの企画・提案をすることができる。

■**担当教員**：

須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 講義 集合知とソーシャルメディア
- 第 3 回 講義 Wikiと協働、Wikipedia演習説明
- 第 4 回 講義／演習 Wikipedia／客観知、共同編集、文章記述
- 第 5 回 演習 Wikipedia／客観知、共同編集、文章記述
- 第 6 回 講義 Pinterest演習説明
- 第 7 回 演習 Pinterest／ソーシャルメディアとキュレーション
- 第 8 回 演習 Pinterest／ソーシャルメディアとキュレーション
- 第 9 回 講義 インターネットのアーキテクチャとハック精神
- 第10回 講義 インターネットの思想／フラタニティとファンダム
- 第11回 講義 インターネット起源の表現、課題オリエンテーション
- 第12回 演習（制作、作業）
- 第13回 演習（制作、作業）
- 第14回 演習（制作、作業）
- 第15回 演習（プレゼンテーション、総括）

■**教科書**：必要に応じて資料を配布します。

■**参考文献**：インターネットの思想史（2003, 喜多千草 青土社）、ウェブ社会の思想（2007, 鈴木謙介NHK）、アーキテクチャの生態系——情報環境はいかに設計されてきたか（2008, 濱野智史 NTT出版）、新世紀メディア論—新聞・雑誌が死ぬ前に（2009, 小林弘人 バジリコ）、ウェブ文明論（2013, 池田純一 新潮選書）、集合知とは何か—ネット時代の「知」のゆくえ（2013, 西垣通 中央公論新社）

■**成績評価基準と方法**：出席、演習のプロセスと成果物で評価します。演習ごとの評価基準・得点は都度事前に提示します。単位修得には6割以上の得点と10回以上の出席が必要です。課題内容は授業中に発表します。

評価方法	到達目標		評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	
演習プロセス	○	○	30
発表	○	◎	40
出席			30

■**関連科目**：創造産業論、情報社会論、メディアデザイン論、デジタルアーカイブ、メディア芸術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：インターネットは、国境を越えて人々に開かれたメディアです。なぜ我々にはメディアが必要なのか？ 先人は、インターネットに何を夢見たのか？ インターネットは我々に何をもちたらし、今後どのような可能性が開かれているのか？ 共に思索を巡らせましょう。